

**製品名: eEF2K (リン酸化 Ser366) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04573**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	105kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EEF2K
別名	EEF2K; Eukaryotic elongation factor 2 kinase; eEF-2 kinase; eEF-2K; Calcium/calmodulin-dependent eukaryotic elongation factor 2 kinase
遺伝子 ID	29904.0
SwissProt ID	O00418
免疫原	抗血清は、Ser366 のリン酸化部位周辺のヒト eEF2K 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 331-380

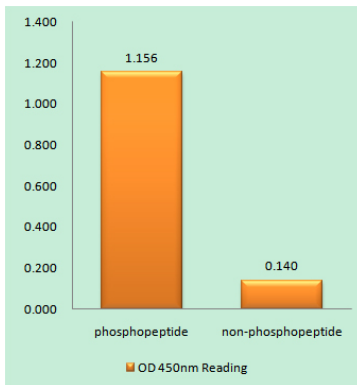
**背景**

この遺伝子は、細胞表面受容体の活性化と細胞分裂を結びつけるカルモジュリンを介したシグナル伝達経路において、高度に保存されたタンパク質キナーゼをコードしています。このキナーゼはタンパク質合成の調節に関与しています。真核生物伸長因子2 (EEF2) をリン酸化することで、EEF2の機能を阻害します。このキナーゼの活性は多くの癌で亢進しており、抗癌治療の有効な標的となる可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + [伸長因子2] = ADP + [伸長因子2] リン酸。、酵素調節: カルシウム/カルモジュリン依存性の分子内自己リン酸化を受け、その結果、部分的にカルシウム/カルモジュリン非依存性になります。、機能: 真核生物伸長因子2をリン酸化します。カルモジュリンに結合します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。アルファ型タンパク質キナーゼファミリー。、類似性:1つのアルファ型タンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット:モノマーまたはホモダイマー。、

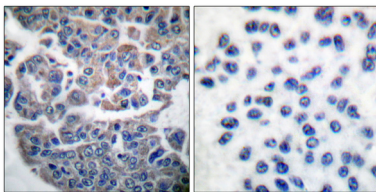
## 研究分野

AMPK

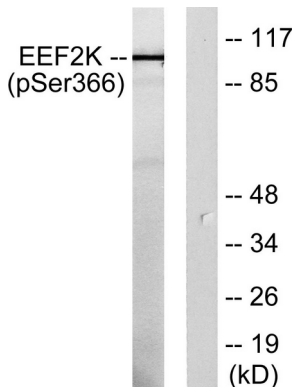
## 画像データ



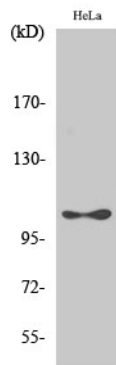
eEF2K (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



eEF2K (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 10% 15% で処理した HeLa 細胞ライセートの eEF2K (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 eEF2K (S366) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して、様々な細胞に対するウェスタンブロット解析を行った。